

おくれた子の生活指導

柳原小学校 長 裕 子

1. 対象児童

小学校 2 年 男 O
生 年 月 日 昭和 23 年 10 月 9 日 生
知 能 検 査 低学年用田中 B 式
知 能 指 数 51

熱心に物を尋ねても決して返事をしない。きれいな絵をみせても瞳を輝かすことさえしない。他の子供達が面白そうに遊んでいてもそれに参加しようともしない。机の上に教科書を出すことすら出来ない。むっつりとしている O 児は唯、給食を食べるという時だけがわかるらしい。「さあお給食ですよ、手を洗っていらっしやい」と云うと「うん」とはっきりうなづく。そしてわずかに、にっこりする。

2. 家庭環境

イ 家族の構成

父……日大卒。会社員。会社の用務で出張が多く、O 児には寛大な極めて善良な父親である。真面目で、几帳面な性格である。

母……高等女学校卒。家庭で和裁など教えている。教育に熱心。O 児の将来を考え、涙ぐましい。学校に非常に協力的。参観日など必ずくる。

兄……本校 5 年生。成績は上位。スポーツが好き。仕事熱心、内気な子である。

ロ 住 居

近隣は俸給生活者と、農家が入り交っていて、空気もよく、健康地帯である。通風、採光、共に良好で清掃もよく行き届いている。小さい時から、殆ど、近所へは遊びに出ない。

3. 身体 の 発 達

イ 生育歴

妊娠 2、3 ヶ月の頃、母親がよく風邪をひき高熱を出したとのこと。そして昭和 23 年 10 月 9 日に O 児は生まれたが難産であったようだ。生後 1 年 4 ヶ月頃より消化不良をおこしその期間 3 カ月の長い間、又 4 才の頃、麻疹より肺炎をおこし高熱つづく……一時は医師に見離されたが、両親の涙ぐましい熱意によって助かる。——私は O 児の知能のおくれている原因はこゝに

おくれた子の生活指導

柳原小学校 長 裕 子

1 対象児童

小学校 2 年 男 ○
生 年 月 日 昭和 23 年 10 月 9 日生
知 能 検 査 低学年用田中B式
知 能 指 数 51

熱心に物を尋ねても決して返事をしない。きれいな絵をみせても瞳を輝かすことさえしない。他の子供達が面白そうに遊んでいてもそれに参加しようともしない。机の上に教科書を出すことすら出来ない。むっつりとしているO児は唯、給食を食べるという時だけがわかるらしい。「さあお給食ですよ、手を洗っていらっしゃい」と云うと「うん」とはきりうなづく。そしてわずかに、にっこりする。

2 家庭環境

イ 家族の構成

父……日大卒。会社員。会社の用務で出張が多く、O児には寛大な極めて善良な父親である。真面目で、几帳面な性格である。

母……高等女学校卒。家庭で和裁など教えている。教育に熱心。O児の将来を考え、涙ぐましい。学校に非常に協力的。参観日など必ずくる。

兄……本校5年生。成績は上位。スポーツが好き。仕事熱心、内気な子である。

ロ 住 居

近隣は俸給生活者と、農家が入り交っていて、空気もよく、健康地帯である。通風、採光、共に良好で清掃もよく行き届いている。小さい時から、殆ど、近所へは遊びに出ない。

3 身体 の 発 達

イ 生育歴

妊娠2、3ヶ月の頃、母親がよく風邪をひき高熱を出したとのこと。そして昭和23年10月9日にO児は生まれたが難産であったようだ。生後1年4ヶ月頃より消化不良をおこしその期間3カ月の長い間、又4才の頃、麻疹より肺炎をおこし高熱つよく……一時は医師に見離されたが、両親の涙ぐましい熱意によって助かる。——私はO児の知能のおくれている原因はこゝに

と思います。

天的な原因として「胎内感染」です。母体が胎生期に風邪を度々ひいて高熱を出したこと。第2の出産時の障碍です。難産であると胎児脳に色々な圧迫を加えるので、それが知能の発達を抑えることがあるとのこと。次に後天的な原因として消化不良、流感、肺炎等があげられます。O児の発育の旺盛な乳幼児期に脳を犯されると非常に影響が大です。O児の父は大学卒。母親は高卒。両親の知能はむしろ高い方であろう。O児の精神薄弱の原因は以上のような点からだと思

入学後の発育

厚生省の平均体位と比較してみると、身長も体重もわずかに劣る。運動能力が非常に劣り、又手先の仕事も極めて不器用である。

交友関係

校内では全然友人もなく、何時もひとりである。家庭でも殆ど独りで遊んでいて、近所へ遊びなど行かない。友人として近所に年下のA子がいる。A子も無口な子である。A子が遊びに来ても、家の中で遊んでいることが多く、ままごと等、女の子のする遊び等していても、やはり口が少なく、だまって2人でやっていることが多い。

O児の情緒生活について (観察日記より) 4月10日

今日は始業式である。2年生への進級は楽しい。今迄最低学年であったのに、新しい1年生を会ったことは、たまたま嬉れしいことであろう。児童達の嬉れしそうな顔・顔・みんな元気一ぱりと「ヘーイツ」「ヘーイツ」と答える。O児だけいない。どうしたのだろと思っているところ。S先生がO児童をつれて来られ、「この子2年生でしょう」と云う。O児は1年生の時の教室だったのである。O児に自分の教室と、座席(私の前、一番わかりやすいところ)とを良く教え

4月12日

今日より始業時が、8時30分となる。教室へいってみると又O児がいない。私はもしや?と思い又1年生の教室へ行ってみた。O児は又1年生の教室の前でボンヤリたっていた。

4月14日

今日で2日欠席。放課後家庭訪問をする。家の前でO児が遊んでいた。「どうして学校へ来なかったの。」と尋ねてもだまって口をつぐんだまゝ、たゞ目ばかりパチクリしている。母親にたずねてみたら、どうしてもいやだといって行かないと云う。友達になにか意地悪されたらしい。

4月16日

明日行き先ずO児の席を見る。級友達にO児に対して保護協力的!親切にしてやるよう注意

5月4日

級友がさそっても遊ぼうとしない。校庭の隅でみんながたのしそうに遊んでいるのをたゞポツヤリと見ている。

5月11日

2年生になって、私が受持ってから早1ヶ月となる、けれどもO児は当然必要なるべき言葉も1度も発しない。O児が、何時ものように校庭の隅の樹のかけに何やらしきりにやっている。O児の態度にも、どことなく熱心に打込んだところがある。子供達の遊び相手をしていた私は、やっと、その仲間を離れてO児の側へ行って見た。O児は熱心にアリの行列をながめているのである。「何しているの」……とやさしくよびかけてやると、いかにも私の来るのを待っていたといわんばかりに「アリツー」と誇らしげにありの方を指さした。はじめて 私に云った言葉。やっぱりO児にも、正常の子供達同様に豊かな精神や感情があったのか、私はたまらなく嬉しく、O児が、私と語ることの出来たということが発見した喜びで一ぱいであった。

5月17日

今日は遠足。毛野の土手まで歩くのは、O児には無理である。母親と一緒にいていただくことをお願いする。お昼になるとリンゴを1つもって来て、「これ、これ」と云う、むいてやってくれ一緒に食べた。

5月18日

昨日の遠足の恩顔面をかませた。今まで何もかいたことのないO児が、めずらしく何やら書いてある。「何かいているの」ときくと、「オカシ、ハシ、カワ、リンゴ」といって一つずつお話しが出来た。これは私に対して3度目の言葉でした。

6月10日

2度目の絵をかく、一寸意味がわからないので、「なにをかいたの」と優しくたずねてみた。「これお月さま、これおてんとうさま」と話してくれた。一つの画面に太陽と月と2つ書いてある。

(描いている間に段々、その絵の意味が変わってゆく。初めは朝の景色をかくのだというて描き始めても、かいている間に段々とその絵の意味が変わってゆく——遂に夜の絵になっている。)

6月12日

朝教室で事務をとっているとき何時もより早く学校にO児が来た。だまって教室に入って来たO児に、S子が「Oちゃん おはよう」と云うと「オハヨウー」といった。そして私にも……はじめて「おはよう」と云う。にっこりしながら!

7月7日

このころ毎朝「オハヨウー」と大声で呼びながら教室にとび込んで来る。教室に入ってみんなが

してもらえるのがとても嬉しいらしい。又大部私とお話が出来ようになり、絵等もかくよくなった。又自分の名前もどうにか、かけるようになった。何の意図もなく、筋肉の運動にまかせて鉛筆を走らせている。

10月20日

明日から夏休み。やっと社会性がでて来たのに、又もとへ戻る憂があるので家庭訪問をし、休中の生活指導について話し合った。

10月1日

毎日運動会の練習、O児も一緒にリズム遊びをやっている。休み時間、ひとりで蝶々のまねをして飛んだり、花を手でつくったりして1人で話をしている。

10月13日

今日は立ってお話できた。ほめてやりましたら、嬉しそうにとけそうな顔をしていた。

12月5日

今日、母親がみえて、夜お風呂に入ってハンカチを自分で洗ったと嬉しそうに報告する。又屋敷にT子のかみの毛をつかんでT子を泣かせてしまった。

O児のはじめてのけんか。この頃、O児が自信をもって来た姿を見て私は心強いものを感じました。

12月10日

給食の時間にO児の机のふたが動いて、ミルクがこぼれてしまった。「そうきん」と誰かがいふと、びっくりしたようにそうきんをとって来て、1人でふいていました。

12月18日

昨日から風邪気で、今日は熱がある。私が気持が悪いと云うと、O児が、何も云わず私の側へ来てここにこしている。そしてだまって後へまわってかたをたふしている。頭のよさにおいておどらないO児。しかし心のよさにおいては一。生地のまゝの人間性。ますます私をひきつけようとする。疑うことを知らないO児の瞳。平和そのものである。たゞ知慧のひらめきは、たしかにまだ見えてはいない。だが、懐疑と醜悪とに汚されたひとみではない。

O児の観察日記は今なおつづいている。又O児のこのように進歩してゆく毎日の様子を家庭に連絡し、報告します。目にみえない、予期もしない時に進歩があらわれてみたりして、この上もなく喜びを感じます。

論として (対策)

このような児童は正常な教育と効果と望むことは出来ない。即ち他の正常児童と伍して、教育を受けるのでは到底学習に効果あらしめる事は出来ない。又その情意の特質に従っての訓練も困難

と思われる。このような点から普通学級で取扱い場合普通児と異つた留意の下に取扱いなければならないと思われ

◎ O児の取扱上に於て

- (1) 学習環境の調整に考慮して来た。つまり級友の態度や感情がO児に対して保護協力的になるように留意し、殊にO児に悪影響を及ぼす原因を除去し、安定した学級社会を構成するようたえ気を配っている。
- (2) O児は殆ど話をしない、然しむりに話させようとあせらず、どんな小さい進歩も認めて一人心から喜んでやった。O児の経験や興味あることを話題にえらんで私との接触を密にし、個人に親しく話をする場をおおくした。又私に対する信頼感を、もたせるようにしている。同時に平等感、圧迫感を除去するよう心掛けている。
- (3) 生活に必要な基礎学習を主として、基礎となって役立つ知識、技能をO児の能力に応じて慣させようと思っている。
- (4) 情操教育、保健教育に留意し、言語教育を重視し人間的に円満な成長をさせる。

◎ 学習指導上に於て

- (1) O児の能力に応じた指導計画を立てている。それはあくまで全体学習の場に於て学習の機会を与えるのである。
- (2) 学習の動機づけに特に注意している。興味を持続したり速かな轉換をなすと云うような事は極めて困難であるので、学習問題に対する興味づけを考慮し、学習意欲をおこさせるようにした。
- (3) 次に大切な事は出来ても出来なくともやらせる事が必要である。O児に出来る様なものをやらせ、自分にも出来ると云う自信をつけてやることである。

努力の点を与えて成果を問題外とすること、甘い点をつけて勇気づけること、そうしながら自信と勇気をとりもどさせること。

- (4) 一斉学習の場合でも必ず適応した何かを用意し活動出来る物を与えてやるように心掛けてい

すべての子供が要求するものは何んでしようか、第一のものは安全感、従属感だと思います。それは家族の人達の中で愛され、懲せられていると云う温かい保証からくるのではないでしようか。それは家庭の生活の安定と家庭内で、その子の位置がしっかりした確実な地位にあるということから起ってくるのだと思います。欠陥のある子供も、両親、兄弟、姉妹の愛情を確信し家事で他のものと同じように、家庭の建設に重要な役割を果しているという伏よい感情を持っているならば、いきとした安全感を奪われることはないと思います。大人と同じようにすべて青少年女達は成功、成功感及びいろいろの事態に立向ってゆけるという自信を持つ必要があると思います。一見、知の遅れた者にも、仔細に点検すれば何か優れた資質が隠されて居ります。彼等の心はものごとの体的な側面だけに停着していて、どうしても具象的側面の背後にある抽象的な世界に入ってゆ

できない。知力では年齢相当の勉強をすることが出来ないかもしれないが、家庭で、お皿をふく、お母さんの手助けをしたり、可愛がっている動物を責任をもって、注意深く世話をしたり、はしゃぐ喜びを持つこともできるでしょう。唯一つの能力を使う以外に遂行感が得られる沢山の道があるのではないのでしょうか。精神薄弱児の教育は、たゞ教室で机の上に教科書をひろげ、ノートで勉強することではない。生活する場があたえられ、そこで生活することによって生活の方向と技術と態度を身につけ、それが生活へ還元され、生活の力となって行く教育であらう。そして、私達教師の深い愛情と長期間にわたって持ち続ける意志と努力であることを行います。

以 上